



7

【解説】
ゲンゴロウが少なくなったのはなぜ?

ゲンゴロウは田んぼの昆虫の代表格で、昔は子どもたちが捕まえて遊んでいました。しかし、今ではほとんど見ることができません。

《自動車の音》
ブ～～～ン

けんちゃん おじいちゃん、たのしかったよ。ありがと。

でも、ゲンゴロウをつかまえられなくて、ちよつと残念だったなあ…。

昔はいっぱいいたんでしょ。

どうしてゲンゴロウが少なくなつたの?

おじいちゃん この辺りではまだ、ゲンゴロウを見ることがあるんじやが、「東京では絶滅した」と一ユースでいいよつたで。

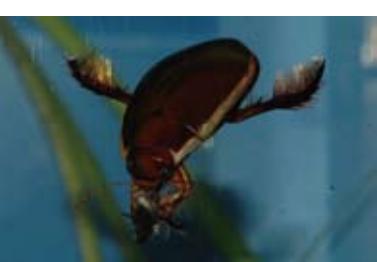
ゲンゴロウが少なくなつたんはのう、いろんな理由があるんよ。

田んぼに農薬を使つたり、溝をコンクリートで固めたりしたからなんよ。

くわしくさせば長～～い話になるんじやがの…。

(少し間をおいて)

おうおう、けんちゃんは疲れて寝てしまつたんじやのう。



ゲンゴロウ

さもざまな理由が考えられます。一度減ってしまった生きものを復活させるのは、とてもむずかしいのです。

ゲンゴロウの幼虫が育つ田んぼの環境がずいぶん変わりました。使う農薬の種類が変わりました。ゲンゴロウを殺してしまった農薬もありました。田んぼのつくり方も変わりました。中干しの時期が早かつたりヒヨセがなかったりすると、幼虫は干からびてしまします。畦や溝をコンクリートで固めてしまつと、さなぎになる場所がなくなってしまいます。それどころか、農家の人が田んぼで稻をつくることをやめてしまって、ゲンゴロウのすみかである田んぼ自体がなくなつてじるといふもあります。